

活力と安全を育む道づくり

株式会社山陰合同銀行
取締役会長

まる いわね 磐根さん



まる いわね 1935年生まれ 58年一橋大学法学部卒。58年日本銀行入行。外国局次長、秘書役、発券局長を経て、88年山陰合同銀行副頭取に。92年頭取就任。2002年より現職

中国地方の道づくりを語るうえで、まず注意しなければいけないのは、山陽と山陰では大きなギャップがあること。高速道路の整備は、島根や鳥取では、今ようやく整備が始まろうとしている段階で、大都市のような高速道路不要論は当てはまらないのが実情です。

中国地方の今

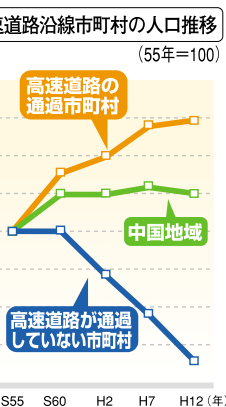
は、山陰地域相互や山陽と山陰を結び、各地域を有機的につなぐ基幹道路網が不可欠です。特に尾道松江線は、広島との連携を強くするとともに、西瀬戸自動車道を通して四国

高速道路の開通は、 経済・医療の生命線

として頼る国道9号は片側1車線のため、事故発生率が高いうえに、拠点病院への救急搬送に時間がかかり過ぎるという深刻な問題を抱えています。移送途中で危篤と

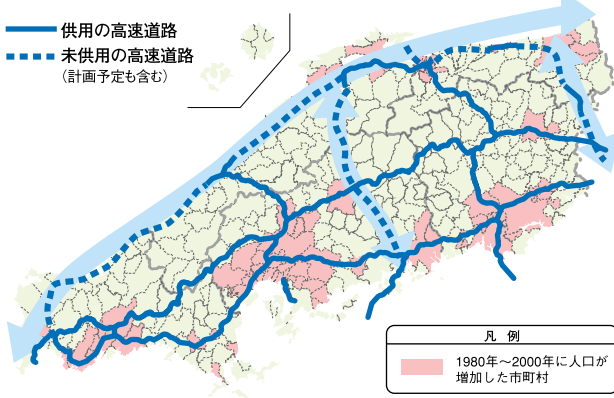
なるケースも少なくないだけに、早く着実に病院へ到達できるネットワークづくりは、まさに生命線と言えるし、災害時における危機管理や迅速な支援を行う意味でも大切です。

高速道路の利用料金に関しては、地域に身近なものであるために、可能な範囲で低くする努力が求められます。



※資料／総務省「国勢調査報告」

●増加する高速道路沿線市町村の人口



人口が減り、過疎化が進む山陰ですが、経済発展や国際性から医療、防災まで担う道路づくりは、採算性や効率性だけでなく、社会的・国家的な視野から捉えるべきです。有料と無料の区間を設定するなど、柔軟な仕組みを考えたたり、国の直轄方式を検討するなど、大いに議論して整備を進めていく必要があります。